

英国 : CFD 制度による第一回オークション結果が発表¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

英国では昨年、新たな再エネ支援スキームとして差額決済契約 (Contract for Difference: CFD) 制度が導入され、本年 2 月、この制度のもとで実施された第一回オークションの結果が発表された²。本制度は従来の再エネ購入義務証書制度 (Renewable Obligation Certificate) に代わるもので、今後、様々な再エネ発電技術の発展を促しながら、同時に、できるだけ価格競争力のある再エネ電力を導入し、電力料金の上昇を最小限に抑えることを目標としている。

差額決済契約は本制度の実施者として政府から任命された National Grid と発電事業者との間で締結され、発電事業者は政府が決定した基準価格 (strike price) とその時々々の電力市場の平均卸価格によって算出される指標価格 (reference price) との差額を、15 年間に亘って補助として受け取ることができる³。基準価格は導入年毎に 2018/19 年まで設定されており、将来の基準価格は技術の進歩を考慮して段階的に低下している⁴。

再エネ発電技術は「確立された技術」(太陽光、陸上風力、廃棄物など) と「発展途上の技術」(洋上風力、先端的転換技術など) の 2 つに区分され、それぞれ、導入年毎に予算の上限が設けられている⁵。このため、それぞれの区分・導入年において予算の上限を超える応募があった場合、入札価格の低い順に応札量を積み上げ、予算の上限に達した時点の入札価格が政府決定の基準価格に代わる基準価格になる。

今回のオークションは 2015/16 年、2016/17 年、2017/18 年、2018/19 年に稼働開始となる再エネ発電施設が対象となり、5 件の太陽光、15 件の陸上風力、2 件の洋上風力、3 件の先端的転換技術など、合計約 2GW の再エネ発電が選定された。詳細は以下の通り⁶。

¹ 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業 (海外省エネ等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

²

https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/407059/Contracts_for_Difference_-_Auction_Results_-_Official_Statistics.pdf 参照

³ 指標価格が基準価格を上回る場合には、発電事業者は差分を返還する。

⁴

<https://www.emrdeliverybody.com/Shared%20Documents/CFD%20Round%20Guidance%20ISSUE%2002%20Final.pdf> 参照

⁵ 「確立された技術」5000 万ポンド (2015/16 年)、6500 万ポンド (2016/17- 2020/21 年)

「発展途上の技術」1 億 5500 万ポンド (2016/17 年)、2 億 3500 万ポンド (2017/18 - 2020/21 年)

⁶ 表に示されるもの以外に 2018/19 年に操業を開始する 95MW (2 件) の廃棄物発電が選定されている。

	2015/16 年	2016/17 年	2017/18 年	2018/19 年
「確立された技術」				
基準価格 ポンド/MWh	50	79.23	79.99	82.5
太陽光	33MW (2 件)	38MW (3 件)		
陸上風力		45MW (1 件)	77MW (2 件)	625MW (12 件)
「発展途上の技術」				
基準価格ポンド/MWh			119.89	114.39
洋上風力			714MW (1 件)	448MW (1 件)
先端的転換技術			36MW (2 件)	26MW (1 件)

この結果で注目されることは、オークションで決まった基準価格は太陽光、陸上風力、洋上風力のいずれも全ての導入年において、政府が決定した基準価格⁷よりも低かったことである。政府決定基準価格と比べて、太陽光（2015/16 年）は 58%減、陸上風力（2016/17 年）は 17%減、（2017/18）は 14%減となっている。また、太陽光が陸上風力と同じ土俵で競争入札に掛けられ、2016/17 年の導入量として風力発電とほぼ同量が選定されていることが挙げられる。

新たな CFD 制度の基で今回選定された再エネ発電量は、今後の導入必要量の一部にしか過ぎない。しかしながらできるだけ価格競争力のある再エネ電力を導入するという目標は達成しており、今後この新スキームがどのように有効に展開するかが注目される。

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp

⁷ 太陽光 120 ポンド/MWh (2015/16)、115 ポンド/MWh (2016/17)、110 ポンド/MWh (2017/18)、100 ポンド/MWh (2018/19)
陸上風力 95 ポンド/MWh (2015/16)、95 ポンド/MWh (2016/17)、90 ポンド/MWh (2017/18)、90 ポンド/MWh (2018/19)
洋上風力 155 ポンド/MWh (2015/16)、150 ポンド/MWh (2016/17)、140 ポンド/MWh (2017/18)、140 ポンド/MWh (2017/18)